

海外留学アドバイザー資格試験の小論文

テーマ：留学にあたって、なぜ自国の歴史や文化を知る必要があると思われますか？

清水 武

留学にあたっては、まずその目的をしっかりと定めることが大切である。外国語を学ぶため、異文化体験のため、世界の仲間と友情を育くむため、といったさまざまなケースがあるだろう。

留学先のクラスには世界各国からいろいろな人が来ている。彼らからもその国の文化や生き方を学ぶ一方で、今度は日本の国のこと、文化について語る必要も出てくる。そこで自国の文化や歴史をしっかりと学び知っていることが必要になってくる。誰でも、一步海外に出たら“ニッポン代表”なのである。

アジアからの留学生が日本の戦争責任について糾弾したり、対日批判の声も聴くかもしれない。そのときどう対応するか――正しい歴史認識と日本の現代史についての理解が不可欠となってくるだろう。

近年、日本は世界有数の輸出国となっているが、文化の分野となると明らかな入超である。マンガ、カラオケ文化が世界へ流布しつつある一方で、日本の伝統文化はまだよく理解されていない。日本製の精密機器や電気製品、自動車のメーカー名は知っていても、日本の文化や日本人の生き方、考え方についてはほとんど知られていないのが現状である。

そんなことから、私は現役時代に特派員としてパナマに駐在していた際、できるだけパナマ庶民との交流に努め、訪れたラテン・アメリカの国々でもそうした観点から市民との交流を心がけてきた。国立パナマ大学の新聞学科に聴講生として籍を置いていたとき、担当教授に依頼され、クラスで日本の新聞事情についてミニ講演をした。そして定年後、横田基地内にあるセントラル・テキサス・カレッジに通っていた際には、プレゼンテーションで日本の“横並び社会”について触れ、またスペインのマラガ大学に1年間、定年留学していたときには、ヨーロッパ各国から来ているクラス仲間からの要望で、仏教について語った。

真の国際人とは私は①自国の歴史や文化に深い理解と愛情を持ち、機に依じてそれを外国人にも伝えることができること②他国の文化を理解し、現地の慣習や伝統を尊重、良い面は積極的に学んでいこうとする姿勢を持つこと③どこの国、どの民族とも友好を心がける姿勢があること、と思っている。

留学はそうした国際人に育つために極めて有用な道でもある。そのためにも、自国の歴史や文化をしっかりと知ることが必要なのである。